

頑張れ!
ルーキー

rookie FIGHT!!



平成19年度第13回土木部技術職員等研究発表会
最優秀賞受賞

島原振興局建設部河港課港湾漁港班

井手 哲 主任技師



汚れていく海、荒廃する施設を
何とかコストをかけずにきれいにできる方法はないか、
そんな課題を、行政と地域住民が協働で解決！

平成19年度第13回土木部技術職員等研究発表会で、島原振興局河港課港湾漁港班の井手哲主任技師(33歳)が書いた論文「ヤギ・羊・ロバ・ポニー E C O 大作戦」が最優秀賞を受賞。この論文には、当時、港湾漁港班が抱えていた「公園の雑草」と「砂浜に流れ着くアオサの異臭」という二つの問題に住民と共働で取り組んだユニークで、かつ画期的な試みが綴られています。今回は受賞者の井手主任技師に話を聞いてみました。

「当時、海浜公園の雑草の除去に約50万円、アオサの撤去に約150万円という費用がかかり、問題は深刻でした。私はなんとか解決策はないものかと島原農業高校の山田先生に相談したところ『ヤギや羊の飼料にどうでしょう?』と提案されたんです。おもしろい!と思い、さっそく公園に一頭の羊を放してみたら、すぐにモグモグと公園の草を食べ始めました。その瞬間に解決の糸口が見えた気がしました。」と当時をふりかえる井手主任技師。その後、井手技師ら港湾漁港班は島原農業高校の生徒たちと協力しながら、動物を用いた雑草とアオサの除去活動「ヤギ・羊・



島原農業高校の山田先生(右)と生徒さんたち

ロバ・ポニー E C O 大作戦」をスタート。行政と学校がタッグを組んで生まれた一つの試みは、公園をきれいにするだけでなく、地域の憩いの場、ふるさとのきれいな海をとりもどす運動の火種となりました。

また、アオサの除去作業をするうちに、沈殿するガタの解消と水質浄化が新たな課題として浮上。このときも井手技師ら港湾漁港班が先頭を切り、水質浄化の効果があるEM菌を活用した地域住民参加型の水質浄化計画を立ち上げました。

「EM菌の入った泥団子を地域の人たちみんなで作って、それを海に投入するという活動です。何か環境に良いことをやってみたいという思いは誰の心にもあるはず。行政が上手に情報発信をすることで、その思いを実際の活動につなげていければと思います。」

今ではすっかり地域の憩いの場として生まれ変わった海浜公園。最近では、公園に動物を放して『ふれあい動物園』を開き、子どもたちに動物とのふれあいを提供するなどの試みも行われています。



EM菌の泥団子づくりに協力する地域の皆さん

